

2020年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹

2019年11月7日

売上・利益ともに上期として過去最高

(億円)

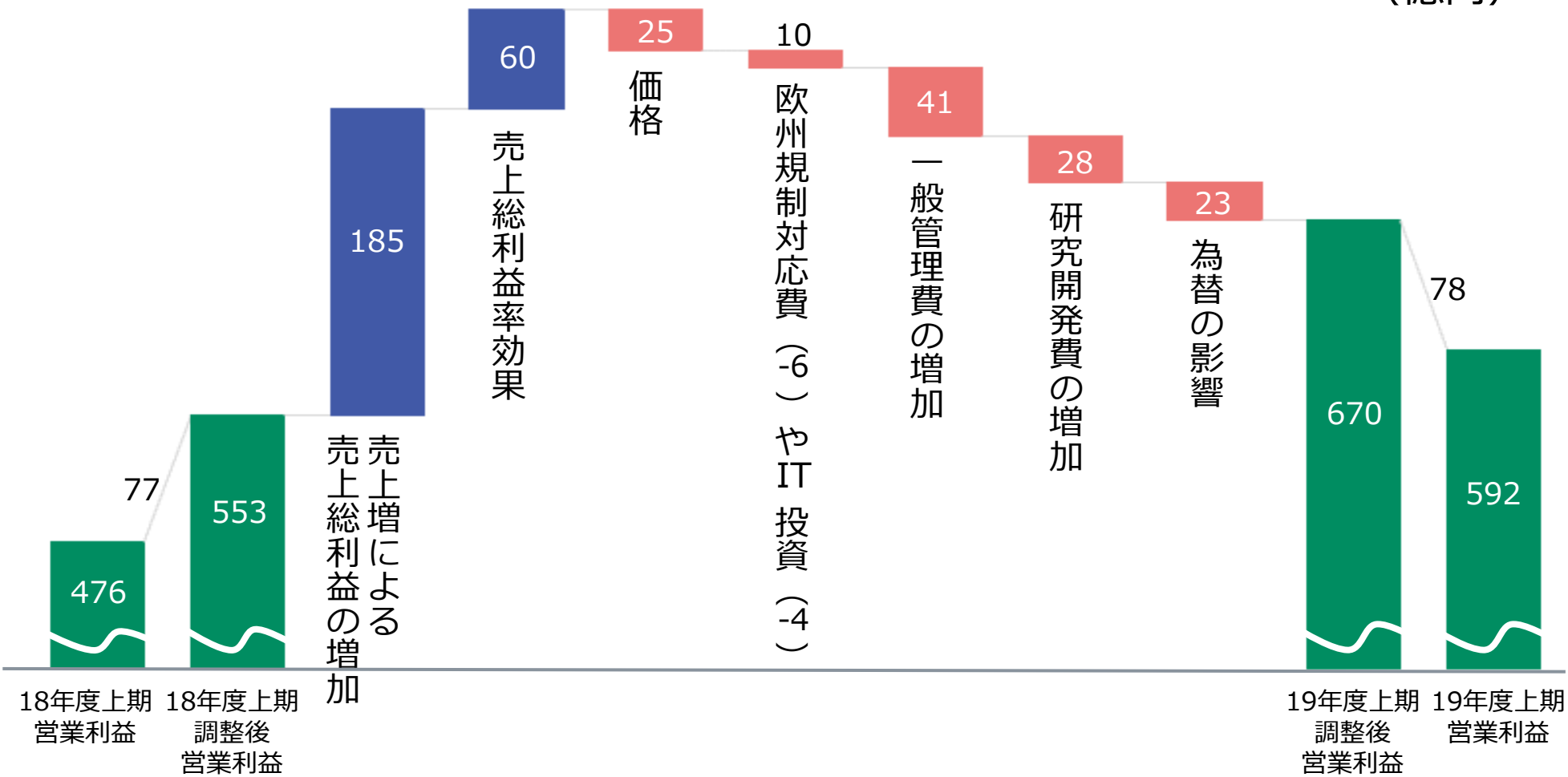
	18年度上期	19年度上期	増減率	為替除く 増減率
売上収益	2,850	3,073	+8%	+11%
売上総利益	1,546 (54.2%)	1,715 (55.8%)	+11%	+14%
一般管理費	870 (30.5%)	896 (29.2%)	+3%	+6%
研究開発費	238 (8.3%)	243 (7.9%)	+2%	+5%
その他収益費用	37	16	-	-
営業利益	476 (16.7%)	592 (19.2%)	+24%	+29%
調整後営業利益	553 (19.4%)	670 (21.8%)	+21%	+27%
税引前利益	445 (15.6%)	581 (18.9%)	+30%	
当期利益	345 (12.1%)	457 (14.9%)	+33%	

期中平均レート	USD	110円	109円
	EUR	130円	121円

- 売上収益 : 全カンパニーがプラス伸長。TISが全地域で二桁伸長し全体を牽引
- 調整後営業利益 : 高収益品の販売増。心臓血管において遅めの費用進捗
- 税引前利益 : 前年同期の為替差損28億円に対し、今年度は差損11億円と縮小

調整後営業利益増減分析

(億円)



地域別売上収益

■ 19年度上期
■ 18年度上期

売上収益

売上収益前年比較

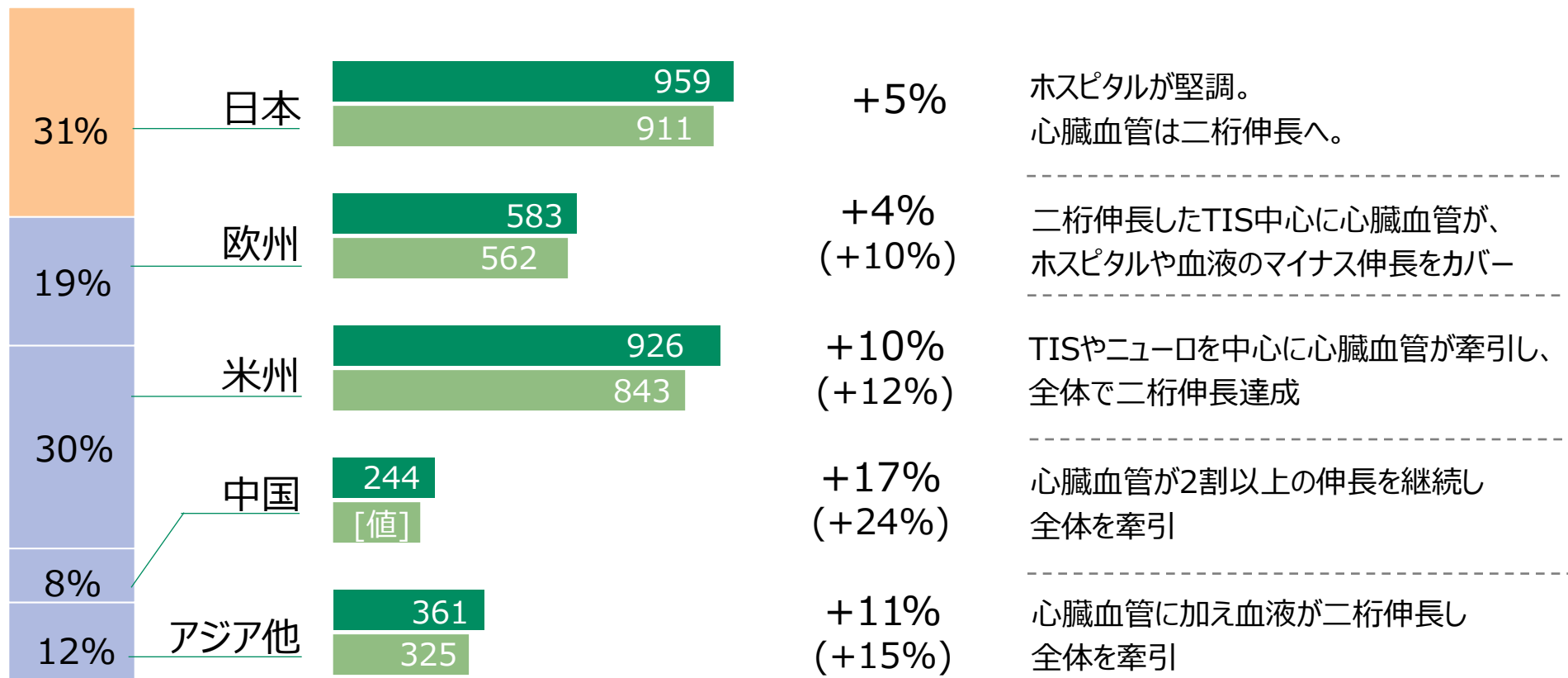
金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く

100% = 3,073億円

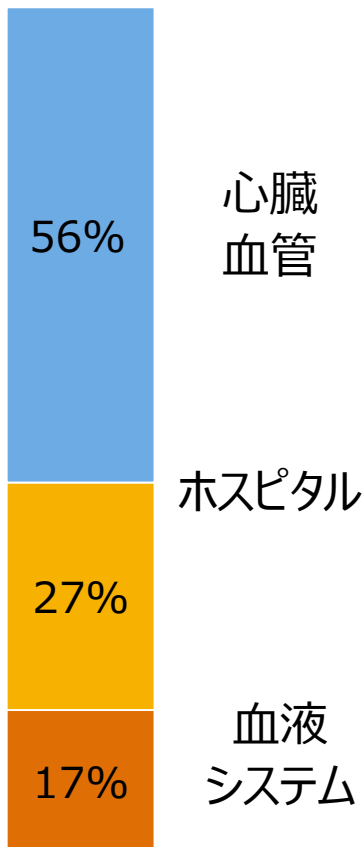


カンパニー別売上収益

19年度上期
18年度上期

売上収益

100% = 3,073億円



心臓
血管

ホスピタル

血液
システム

売上収益前年比較

金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く

1,726

1,535

+12%
(+16%)

TISが全地域で二桁伸長しニューロと共に全体を牽引。全事業がプラス伸長へ

828

812

+2%
(+3%)

アライアンス事業が二桁伸長を継続し全体を牽引

518

502

+3%
(+7%)

血液センター向け製品の日欧米での好調に加え、新興国での入札獲得も貢献

心臓血管：全事業がプラス伸長。大幅な増収増益

	(億円)				
	18年度上期	19年度上期	増減率	主なトピック	金額
売上 収益	() 内は為替影響除く				
	1,535	1,726	+12% (+16%)	TIS : 全地域で二桁伸長	+153
				ニューロ : 米国中心に高伸長継続	+35
				CV : 人工肺を中心に堅調	+1
				血管 : 順調な国内直販移行。	
				海外は組織再編中	+2
調整後 営業 利益 (率)	345 (22%)	472 (27%)	+37% (+42%)	TISの売上拡大による利益増に加え、心臓血管全体のミックスが大幅に改善。売上好調を背景に一部費用は遅めの進捗	

ホスピタル：売上・利益ともに計画通りの進捗

(億円)

	18年度上期	19年度上期	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

() 内は為替影響除く

売上 収益	812	828	+2% (+3%)	医療器	： 為替影響を除き堅調に推移	±0
				医薬品	： 疼痛緩和や癒着防止材が二桁伸長	+4
				DM・ヘルスケア	： 糖尿病関連製品が堅調に推移	+1
				アライアンス	： 受注タイミングによる影響があるも	
					計画通りの進捗	+12
調整後 営業 利益 (率)	138 (17%)	126 (15%)	-8% (-7%)	費用が先行したQ1から戻し計画軌道線へ		

血液システム：増収へ回帰。計画通りの収益性回復

(億円)

	18年度上期	19年度上期	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

() 内は為替影響除く

売上
収益

502

518

+3%
(+7%)

血液センター : 期初の遅れは戻り平準化。

新興国での入札獲得も寄与 +14

アフレス治療 : 後継装置への切替えの反動 ±0

細胞処理 : 米国・アジアが牽引 +2

調整後
営業
利益
(率)

70

67

-4%
(+6%)

為替の影響大。

計画通りの収益性の回復

(14%)

(13%)

上期利益の上振れ要因と下期のリスク要因

■ 上期利益の上振れの主な要因

- TISおよびニューロの売上増によるミックス改善と両事業の生産コストダウン
- 欧州規制対応費用の期ズレ
- 一般管理費の進捗遅れ
 - ✓ 販促費の期ズレ：心臓血管（市販後スタディ、拡販プロモーション、他）
 - ✓ 販売好調を背景に不支出：ニューロWEBの米ローンチ、TISの市場シェア回復

■ 下期のリスク要因

- 売上：為替影響、消費増税前の駆け込み需要の反動
- 利益：欧州規制対応費など

- 現時点でガイダンス修正は行わないが、上期のモメンタムを維持し、通期ガイダンスの上振れを目指す

主なトピックス

全社

- テルモの日本初「使い切り注射器」が「未来技術遺産」に登録(9月)
- 米国ベンチャーキャピタル 2 社のファンドに参画(8月)
- 「テレワーク・デイズ2019」に特別協力団体として参加。本社地区で推進(7月)



事業

- 手首からの治療をサポートする末梢動脈疾患用ステント「Misago (R2Pシステム)」を米国で発売(9月)
- テルモ山口D&D株式会社の薬剤充填済み注射器の生産設備増設を決定(9月)
- 「PLAJEX」で受託製造する骨粗鬆症治療剤が製造販売承認を取得(9月)
- 鎮痛剤の「フェンタニル注射液」を発売(9月)
- ベルギーの生産設備(アライアンス、TIS)に2600万ユーロの投資を決定(7月)



19年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス	日		医療器	次期シリンジポンプ	日	
心臓	PTCAバルーン	欧亜	済み	医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	済み
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米	済み		癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	済み
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	済み	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米			血糖測定システム	日	
	ミニ・バルーン	欧米			パッチ式インスリンポンプ	日	済み
	血栓吸引カテーテル	日	済み		次期血圧計	日	
	ステントリバー	日	済み		次期体温計	日	
CV	次世代人工肺	日		血液	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日					
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスド）	日					

参考資料

19年度上期 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	248 (+11%)	1,479 (+17%)	422 (+14%)	672 (+15%)	205 (+27%)	180 (+23%)	1,726 (+16%)
うちカテーテル※	187 (+11%)	1,223 (+21%)	344 (+17%)	537 (+20%)	191 (+28%)	150 (+26%)	1,409 (+20%)
ホスピタル	650 (+3%)	178 (+0%)	43 (+1%)	41 (+5%)	12 (+6%)	82 (-4%)	828 (+3%)
血液システム	61 (+5%)	457 (+8%)	118 (+2%)	213 (+6%)	27 (+8%)	99 (+20%)	518 (+7%)
合計	959 (+5%)	2,114 (+13%)	583 (+10%)	926 (+12%)	244 (+24%)	361 (+15%)	3,073 (+11%)

※ニューロバスキュラー事業含む
() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	18年度上期	19年度上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	433	440	+7	+2%	+5%
販促費	87	95	+8	+9%	+12%
物流費	66	68	+3	+4%	+7%
償却費	69	91*	+22	+32%	+34%
その他	216	203*	-13	-6%	-4%
一般管理費計	870 (30.5%)	896 (29.2%)	+26	+3%	+6%
研究開発費	238 (8.3%)	243 (7.9%)	+6	+2%	+5%
販管費合計	1,107 (38.8%)	1,139 (37.1%)	+32	+3%	+6%

*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え

四半期の動き

(億円)

	18年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	19年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上収益	1,420	1,586	1,559	1,525	1,548
売上総利益	747 (52.6%)	876 (55.2%)	843 (54.1%)	852 (55.8%)	863 (55.8%)
一般管理費	435 (30.5%)	450 (28.4%)	467 (29.9%)	445 (29.2%)	451 (29.1%)
研究開発費	124 (8.8%)	123 (7.7%)	116 (7.5%)	118 (7.8%)	125 (8.1%)
その他収益費用	29	6	21	4	13
営業利益	217 (15.3%)	309 (19.5%)	282 (18.1%)	292 (19.1%)	300 (19.4%)
調整後営業利益	248 (17.4%)	359 (22.6%)	309 (19.9%)	339 (22.3%)	331 (21.4%)

四半期	USD	111円	113円	110円	110円	107円
平均レート	EUR	130円	129円	125円	123円	119円

調整後営業利益：調整額

(億円)

	18年度上期	19年度上期
営業利益	476	592
調整① 買収無形資産の償却費	+75	+78
調整② 一時的な損益	+2	+0*
調整後営業利益	553	670

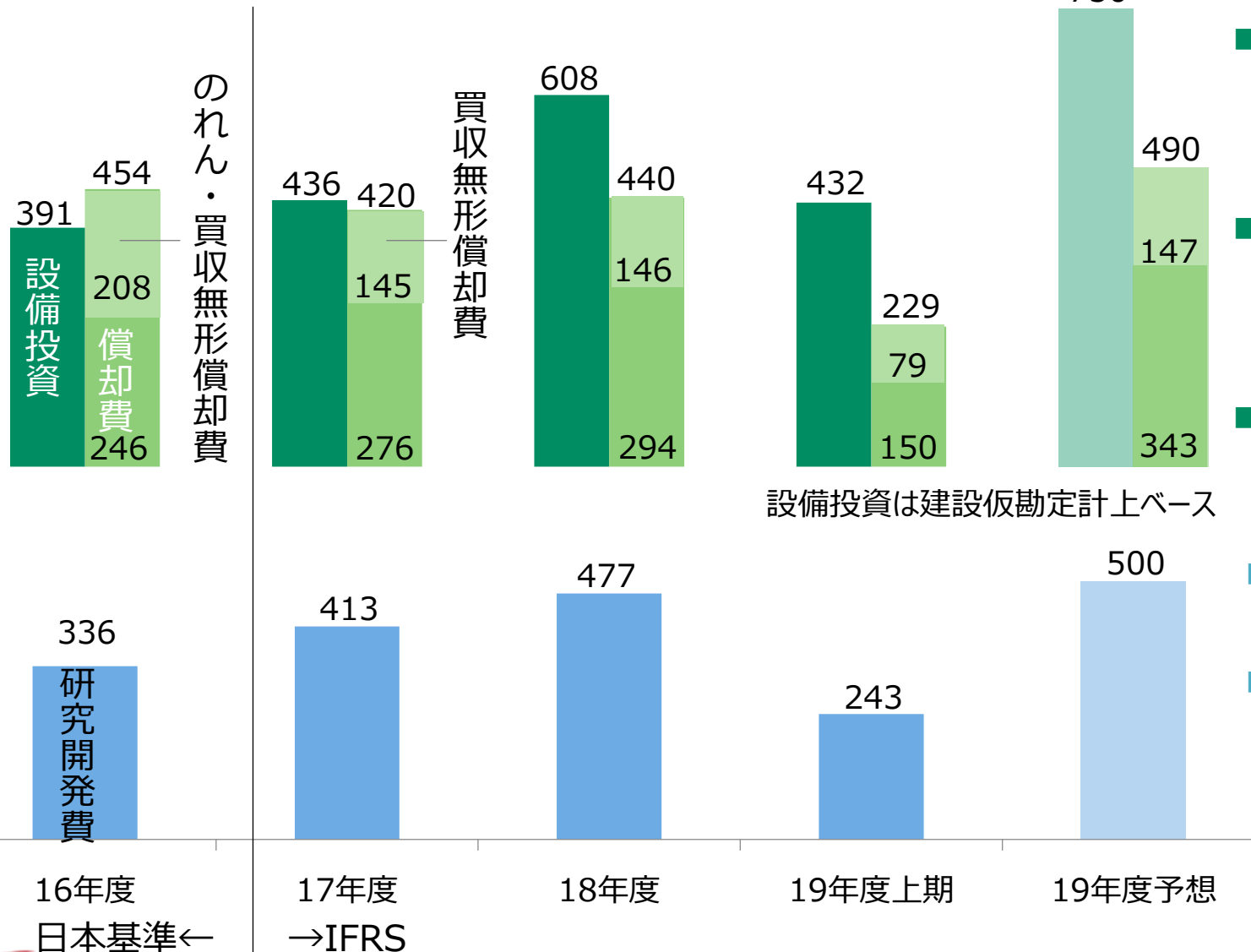
調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

* 19年度上期 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+9
プエルトリコ工場災害保険金受取	-12

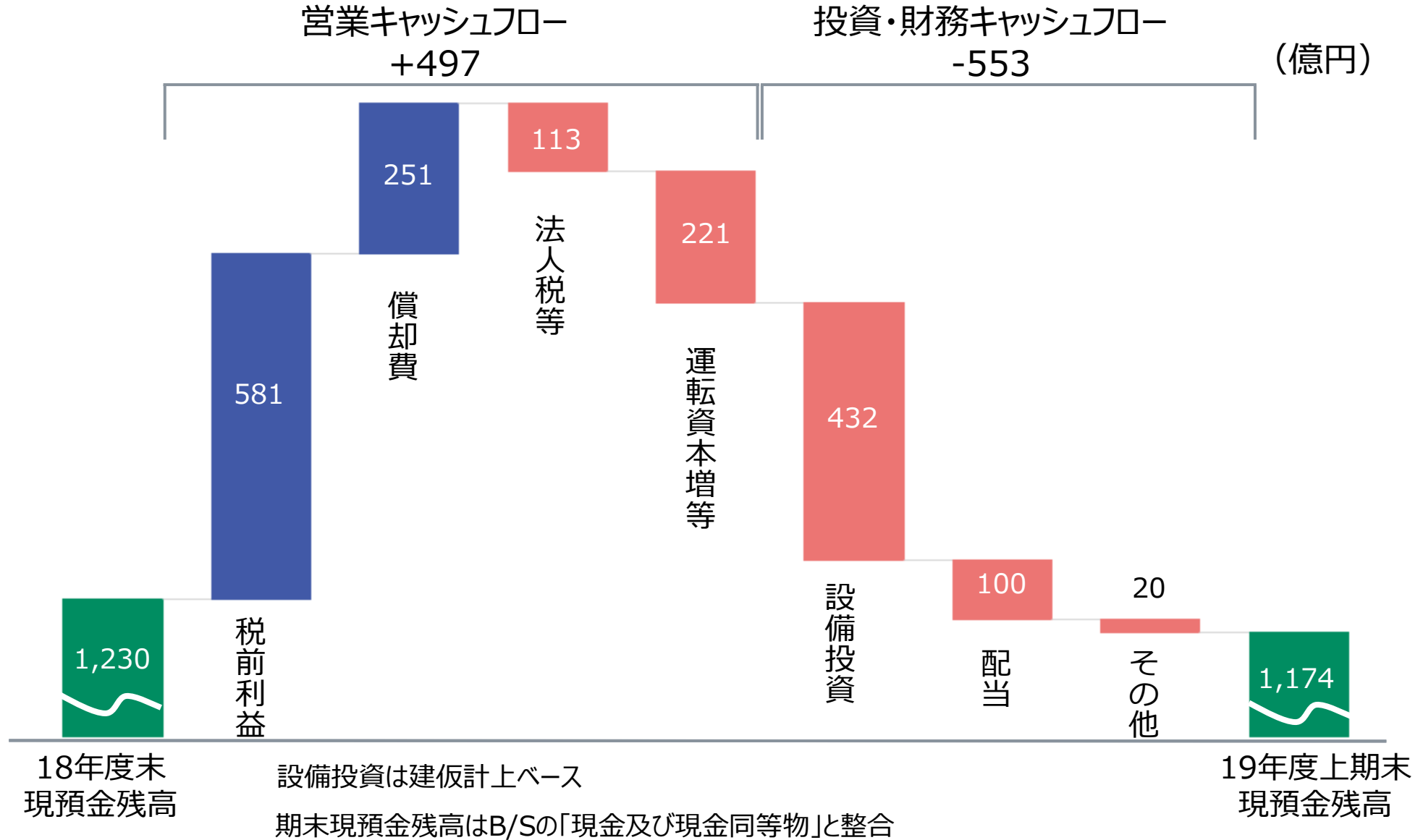
設備投資と研究開発費

(億円)



- 19年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大
- 17年度以降はIFRSベース
 - 買収以外の無形固定資産取得、開発費の資産化含む
- 19年度実績・予想にはリース償却 (IFRS16)含まず
- 主にカテーテル・ニューロ・血液の開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む
 - 18年度 : 24億円
 - 19年度上期 : 23億円
 - 19年度予想 : 32億円

キャッシュフロー



為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	22
調整後営業利益	0	5	12

＜参考＞ 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	19	36

転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

■ 転換状況 (2019年10月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	354億円 (70.9%)	18百万株 (2.4%)
合計	854億円 (85.4%)	44百万株 (5.8%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況： 11百万株(2019年10月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比1.5%)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。